

## お知らせ

- 次回活動日 ; 6月10日(日) 集合 : 9時40分第一駐車場、主な活動メニュー : 相対照度測定、植物調査、動物調査などの班活動。班活動のない会員は植物調査にご協力下さい。
- 年会費納入 ; 未納の方は6月活動日納入又は郵便振替口座00160-1-578810にお振込み下さい。

## 活動の記録

5月20日(日曜日) 快晴 参加会員20名、吉原先生

五月晴れのさわやかな豊英島の新緑のなか、久しぶりに吉原先生をお迎えし、植生調査に野鳥観察、マダケ保護ネット・ヤマユリ保護ネット張り、キノコホダ木移設や森の座標杭ラベル張りなどに忙しく精を出し、充実の一日でした。この日体験参加の長谷川さん、露崎さんは即日入会。

○マダケ保護ネット張り作業 ; 作業の目的は主にシカの侵入防止。去年は、海苔網を利用して防御しようとしたが、網の一部を食いちぎられ、被害を受け、2回目に黒色の網で地面に近い部分を補強して、ようやく10本のタケノコの保護が出来た。その反省に基づき、今年は最初から次のような形で網を張った。ネットの高さは1.8メートルとした。まずマダケを横に渡して、そこに網目10センチのネット(海苔網)を張り、さらに地上から1メートルは黒色の網目の細かいネット(海苔の種苗育成用網)を張った。竹やネットの固定は全てシュロ縄で行った。囲いは、昨年同様2カ所行い、黒色の網が3枚しかなかったことから片方は、下の部分を海苔網を2重にして強化する方法をとった。2種の方法の効果に差があるかも一つの実験。なお、面積は昨年より凡そ3割方広がっている。2年目、参加者の呼吸も合い、作業は極めてスムーズに進んだ。囲った中に果たしてうまくタケノコが芽を出すか、そして保護できるか、不安と期待が交錯する。今回の囲いはしばらく常設して様子を見るということで、それなりにシッカリと工作し入口なども作った。(新井・長村記)

○ヤマユリ保護ネット張り作業 ; 豊英島に夏を告げるヤマユリが見られなくなって久しい。ナルコユリのような弱々しいヤマユリや首無しヤマユリしか見られなくなった。原因は分からないが食害の可能性もあるのでネットで保護することにした。場所は最もヤマユリの分布が多く日当たりの良い森の入口(座標杭4-1と4-2の中間地点)面積は約4m×2m、約10本のヤマユリを緑色の工事用防風ネットで囲む。高さ約1.8メートル。ウサギなども侵入出来ないよう裾を丸太で抑え、合わせ目を針金で縫い合せ。この種作業は体育会系?揃いの「千年の森」の得意分野らしく瞬く間に出来上がる。森の表玄関の景観を妨げるが、植物保護のため我慢。もし原因が食害なら、来年はヤマユリの大輪が復活するか?ヤマユリ復活作戦に乞うご期待!(真鍋記)

○キノコホダ木移設 ; 広場近くのホダ場には、多くのホダ木を敷設してありますが、今年この場所では、全くシイタケを収穫することが出来ませんでした。そこでテストを兼ねて、ホダ木の環境としてもっと適切な場所に一部を移設しました。移設先は、巨木林の今年春に設置したホダ場の近くで、樫の木や常緑樹があり、冬場でも直射日光は当たらないと思います。移設本数 ; 15本、Lot No., S0403, ムカデ伏せ。多くの方々のご協力により、短時間で作業は完了することができました。今後、このホダ木からシイタケが発芽するのを期待しています。(久我記)



新緑・五月晴れの豊英島で



マダケ保護ネット張り



ヤマユリ保護ネット



シイタケホダ木引越し作業

○座標杭ラベル貼り作業；島内の台地部（巨木林・景観管理林・コナラ林）の位置確認用に設置した座標杭約100本について6班に分かれてそのラベル貼りを行った。座標杭は南北160m、東西180mの範囲に南北（座標-2~14）、東西（座標1~19）、方向に設置してあり、今回貼ったラベルは、2-2（南北座標-東西座標）のようにになっている。範囲内ではどの位置からでもほぼ10m以内に1本以上の杭が設置されているので今後の各種調査の位置確認用に活用が期待される。（福島記）

○植生調査；吉原先生に参加していただき巨木林やホテイ岬先端の水際まで未確認種を主に探す。以前から気になっていたコバノガマズミを確認、さらにササバギンラン、マツブサ、クマヤナギ、ウコギ、スノキ、ノダケなど多くの種を見つけることができた。しかし予定していた桜の同定は樹高が高いために葉の採取ができず、同定に必要な要素である花の時期ではないことなどで懸案の解決は先延ばしになってしまった。千年広場で新たにアカネが発見された。島の外にはいくらでもあるので人間が持ち込んだものかも知れず喜んで良いのかどうか。冬の間は明るかった島もこの時期になると林床は光が不足しているせいか個体数が少ないうえ、成長不足で確認作業が大変難しい事をあらためて実感する。

なおマダケ林横のコクランの群生地がマダケ保護ネット作業で踏みつけられてしまったことは、作業班との連絡不足、現場標示・注意の不徹底を反省するできごとでした。（高塚記）



昼休みは吉原植物教室



喰われたキンラン



日照を求めてヒョロヒョロと背丈が高くなったヤマツツジ

追記；この日最初の仕事はツチアケビ（C）搜索、02年生息エリアを徹底的に探したが見つからないので夏に先送り。その他の未確認貴重種も重点的に探したが、残念ながら見当たらない。ナツエビネらしい株も見当たらない。昨秋の研修で伐木して少し明るい巨木林の一角に「もしかしたらナツエビネ？」をマークして夏を待つ。8日前の5月12日植物班臨時活動日に発見し、開花を待っていた唯一株のキンランは上半身を喰いとられている。吉原先生の判断では「これは確かにキンラン、食害は昆虫ではなく動物」。ササバギンランは花の盛りを過ぎていたが、一昨年の立て札の下に生きていた。それにしても林床植物の種数が少なく、単調でイチヤクソウとエビネが非常に多い。この両種とも02年調査で「少ない：△」となっていたが、現状は明らかに「多い：○」。また花木類は日照を求めて背丈を伸ばし、花も葉も実も観察・撮影困難なものが多く、森の整備に一考を要する。

この日の新発見種はアカネ1種、再確認種はクマヤナギ、ウツギ、アズマネザサの3種。豊英島の累計出現種は297種、05~07年調査未確認種は78種となりました。次回活動日の6月10日は草本類のほか、高木の葉を採取して、オオシマザクラやカスミザクラなど未確認種の調査同定を行います。調査最終年度、協定最終年度を迎え調査の遅れを挽回する必要に迫られています。植物班以外の方もご協力をお願いします。（真鍋記）

### H19・トビの営巣観察記

高橋忠友

千年の森に今年もトビが営巣した。連続3年目。3/28に最初の卵1個を確認。1ヵ月後の4/28に2個を確認。5/3には2羽のヒナを確認した。今年は吊橋通行規制のため営巣初期の細かな観察に制限はあったが、何とか2羽のヒナの確認までこぎつけた。しかし後生まれと思われるヒナの動きが心配であった。5/10、残念ながら巣の中のヒナは既に1羽のみになっていた。やはり1羽は死んで、親鳥が処分したものと思われる。5/20、1羽ながらヒナは元気に育っている。1羽になって2羽の時よりも成長が早いように思われる。足も嘴も大きくなった。

観察中に驚いたことは、卵がまだ1個の時に、巣の中に大きな魚がドサット持ち込まれた事だ。抱卵中に、親鳥が自らのエサにしている。魚はヒナのエサだけではなく確認できた。